

終了時評価グリッド (調査結果)

1. 実績の検証

| 評価設定 | | 判断基準・方法 (指標) | 調査結果 |
|----------------|---|--|---|
| 大項目 | 小項目 | | |
| 上位目標達成の見込み | 都市農業の強化を通じて、ボゴタ市の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。 | 2014年までに、ボゴタ市の貧困者居住区 (estrato 1, 2 及び 3) 住民の消費する野菜の量が 3% 増加する。 その他の判断基準 (あれば) | <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの形成時の調査及び専門家着任後のサン・クリストバル病院との調整においては、病院側から「該当データがある」という回答があったため提出を求めた。しかし、その後「野菜の消費量」に関するデータは無いことが確認された (肥満、栄養失調等に関わる統計データはある)。 INS を含む病院以外の機関でもボゴタ市の貧困者居住区における「野菜の消費量」のデータを取っている例は見つからない。 今までのところ、指標の代替案は見つっていない。 植物園のプロジェクト 319 やその他の機関により、ボゴタ市の各地で都市農業を促進するプロジェクトが実施されている。都市農業を開始することで家庭での野菜の採取量は増加していることが受益者から聞かれるが、栄養摂取状況の改善を具体的に示すデータは存在していない。 国際農民交流会の中で 4 月 24 日にインパクト調査を担当した INS より、調査結果が報告される予定。 受益者、植物園の C/P からは一様に、野菜の種類や消費量は増加しているとの回答を得た。 農業栽培マニュアル及び社会学的手法マニュアルが作成され、国際農民交流会において、JICA から植物園に引き渡された。 農業栽培マニュアルについては、植物園がボゴタ市において 4 年間で作り上げてきた適正技術を分かりやすく取りまとめたものであり、カウンターパートからは分かりやすく必要事項を網羅していると評価している。基本的な知識を有している技術者は、本マニュアルを概ね活用できると評価している。 社会学的手法マニュアルについても、マニュアルで紹介している手法や技術は、適用可能な技術を実際のサン・クリストバル区での都市農業普及活動を通して実証した内容であり、本技術の研修やコミュニティでの実施に従事したカウンターパートからは、より良いコミュニティとの関係作りや、住民の参加・積極性の促進、組織の形成などに非常に有効であると好評を得ている。 これらのマニュアルを、今後の植物園の取り組みの中でどのように活用していくかは決まっていない。 |
| プロジェクト目標の達成見込み | 都市農業の強化を通じて、サン・クリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。 | プロジェクト終了までに、受益者の消費する野菜の種類及び量が 10% 増加する。 その他の判断基準 ◆ 野菜の種類や消費量が増加したか (定性的データ)。 | <ul style="list-style-type: none"> 国際農民交流会の中で 4 月 24 日にインパクト調査を担当した INS より、調査結果が報告される予定。 受益者、植物園の C/P からは一様に、野菜の種類や消費量は増加しているとの回答を得た。 農業栽培マニュアル及び社会学的手法マニュアルが作成され、国際農民交流会において、JICA から植物園に引き渡された。 農業栽培マニュアルについては、植物園がボゴタ市において 4 年間で作り上げてきた適正技術を分かりやすく取りまとめたものであり、カウンターパートからは分かりやすく必要事項を網羅していると評価している。基本的な知識を有している技術者は、本マニュアルを概ね活用できると評価している。 社会学的手法マニュアルについても、マニュアルで紹介している手法や技術は、適用可能な技術を実際のサン・クリストバル区での都市農業普及活動を通して実証した内容であり、本技術の研修やコミュニティでの実施に従事したカウンターパートからは、より良いコミュニティとの関係作りや、住民の参加・積極性の促進、組織の形成などに非常に有効であると好評を得ている。 これらのマニュアルを、今後の植物園の取り組みの中でどのように活用していくかは決まっていない。 |
| 成果の達成状況 | 1. ボゴタ市植物園の都市農業に強化される。 2. 対象住民の都市農業に関わる能力が強化される。 | 1. 農業栽培マニュアル (1 種) 及び社会学的手法マニュアル (1 種) が作成される。 その他の判断基準 ◆ 作成されたマニュアルは使用者のニーズや知識レベル、用途に合った内容になっているか。 ◆ 技術者がそれらのマニュアルの内容を適切に理解し、活用できるようになっているか。 ◆ 新規技術者がマニュアルによって必要な技術を理解し、実施できるのか。または、研修が担保されているのか。 2. ベースライン調査によって特定される対象住民の栽培面積が 10% 上昇する。 その他の判断基準 ◆ 住民の野菜の栽培技術の向上が図られたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 国際農民交流会の中で 4 月 24 日にインパクト調査を担当した INS より、調査結果が報告される予定。 技術の普及に従事してきたカウンターパート連からは一様に、住民は都市農業の栽培技術を習得してきているとの意見が聞かれた。 |

| | | | |
|---|--|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 住民の料理、食品加工及び栄養に関する能力強化が図られたか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 狭いスペースを活用する新しい栽培方法が住民の間で活用されている様子は、本評価調査の現場視察からも明らかになった。 ・ ある程度農業経験がある住民にとっても、狭いスペースで実施する野菜栽培の方法は植物園からの研修で初めて知り、実際に活用しているという声聞かれた。 ・ 料理、食品加工及び栄養に関する能力については、研修を受けた住民は、程度はそれぞれ異なるものの、家庭生活で実践しつづけることがカウンタートパートナーの報告や住民へのインタビューから確認できた。 ・ 2008年には円卓会議が11回開催され、常に10以上の組織が参加した。 |
| <p>3. 区の都市農業活動の持続性を確保するために、コミュニティにおける組織枠組みが強化される。</p> | <p>3. サン・クリストバル区にて開催される円卓会議に10以上の住民組織が参加し、年間6回以上開催される。</p> <p>その他の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 今後も継続的な円卓会議の実施・参加が見込まれるか。 ◆ 個々の住民グループの事業能力が強化されたか。 ◆ 区内のグループ間・組織間及び区の間を超えた組織の連携が強化されたか。 ◆ 植物園を中心とした栄養改善機関の連携体制が確立されたか。 | <p>3. サン・クリストバル区長によると、区としても円卓会議を支援していく予定であり、区による都市農業イベントも計画されており、住民や関係者の連携が継続していくことが期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトが実施した円卓会議でのワークショップや住民グループの事業能力強化研修を通じて、住民同士のつながりが強化され、いくつかのグループでは事業を開始していることが明らかになっている。 ・ 区内のグループ間・組織間の連携は円卓会議が機能するようになってきた。 ・ 植物園を中心とした栄養教育機関の連携については、INSの支援を得て栄養や料理方法に関する住民対象のワークショップのモデルが作成され、サン・クリストバル区では実施されているところまでに留まっており、その他の関連組織を巻き込んだ連携体制の確立までには至っていない。 ・ 上記のような改善が確認されている一方、コミュニティにおける組織枠組みが安定して機能するためのプロセスには時間がかかり、引き続きフォローアップを実施していく必要性が指摘されている。 ・ C/Pの全員が都市農業普及プロジェクト（プロジェクト319）のために雇用されている契約社員であり、プロジェクト・リーダー1名、サン・クリストバル区の地区アドミニストレーター1名、農業試験専門職1名、教育専門職1～2名、普及員（テクニコ）4～5名などである（詳細は、C/P配置実績一覧を参照）。 また、2008年からは栄養担当の専門職1～2名が雇用された。彼らは期間限定の契約社員であり、例年12月に契約が切れたあと、1月～3月まで契約が交わされない。2009年度は、4月に入りようやくC/Pの契約が進んでいる。 ・ 技術移転を受けたC/Pの退職、もしくは再契約が結ばれない（事実上の解雇）状況が多数発生している。それらの主な理由としては、契約更新に時間がかかりその間は無休であることから別の職についてしまう、契約期間満了後再雇用の約束があったものの以前の契約の精算等に問題があり再雇用ができず、不安定な雇用形態であることから別の安定した職についてしまう、個人的な理由などが挙げられる。 ・ プロジェクト・リーダーは3年間で4人交代しており、新たなプロジェクト・リーダーが2009年3月に就任したばかりである。 ・ 2008年に市の政補交代があり、幹部の交代や予算の凍結が起こったため、C/Pの継続雇用が不可能になったため、2008年8月～12月はJICA側の予算でC/Pを継続雇用するなどの問題が発生した。 ・ 植物園内の都市農業プロジェクト（プロジェクト319）専用の建物の中に専門家の執務室1室が提供されている。 | |
| <p>カウンタートパートナーの配置</p> | | <p>提供時期、スペース、設備が十分か。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2008年末までに892,229,396コロンピアペソが投入されている。 ・ 活動に必要な資機材は植物園により提供された。 |
| <p>コロンピア国庫の投入の実績</p> | <p>JICA 専門家の執務に必要なインフラ</p> <p>プロジェクトの運営費</p> <p>資機材</p> | <p>投入予算実績、投入時期、項目、数量、金額</p> | <p>2008年未までに892,229,396コロンピアペソが投入されている。</p> |

| | | |
|---------------|------------------------|---|
| 秘書、運転手 | 人数、期間、投入時期 | プロジェクト319の秘書が1名いて、必要に応じて本プロジェクトの作業も担当している。 プロジェクトの活動が必要に応じて運転手が配置された。 プロジェクト開始から現在までプロジェクト運営管理/コミュニケーション・エンパワーメントの長期専門家1名が派遣されている。 |
| 長期専門家1名 | 分野、派遣時期/期間 | 派遣実績なし。 |
| 短期専門家複数名 | 分野、人数、派遣時期/期間 | 参加型地域社会開発 (PLSD) に3名、小規模農民支援有機農業普及手法 (中米カリブ地域) に2名を派遣した。さらに、プロジェクトの投入ではないが、農業農村 (青年研修/中米米混成) に1名の研修員が参加した。 |
| 研修員受け入れ (第三国) | 分野、人数、研修時期/期間、研修後の活用状況 | 内、1名は地区アドミニストレーターとしての契約が更新され、1名は派遣当時の役職ではないがプロジェクトの行事企画員として在籍中、2名は離職、2名は契約手続中 (解雇の可能性あり)。契約手続中の1名の契約が更新されない場合は、PLSD 研修の参加者は3名とも在籍していないこととなる。 |
| 資機材、インフラ整備費 | 供与時期、内容、数量、費用、利用管理状況 | 車両1台のほか、コピー機、PCなどのオフィス機器、デジタルカメラ等、合計116,256,518 コロンビアペソ相当の機材が供与されている。また、植物園内に177,137,733 コロンビアペソ相当の研修センターが建設された。 供与機材は全て管理台帳に記載されている。ハンディGPS及び車輛に関しては植物園が管理している。 GPS 及び車輛に関しては植物園が管理している。 研修センターは2008年3月に植物園側に引き渡され、以後プロジェクト319のコーディネーターが管理している。 |
| 日本国側ローカルコスト | 投入時期、項目、金額 | 総額381,626,644 コロンビアペソが在外事業強化費として投入されている。 |

2. 実施プロセス

| 評価設定 | | 調査結果 | |
|-----------------|--------------------------------|--|--|
| 大項目 | 小項目 | 判断基準・方法 (指標) | |
| 活動は計画通りに実施されたか。 | 1.1. ボゴタに適した都市農業技術改善への支援 | <ul style="list-style-type: none"> 適正技術の開発において、他国の例を参考にするため、下記の研修を実施した。また、栽培試験用のインフラ及び備品類の購入を支援した。 研修センター1棟が建設された。研修センターの投入計画がプロジェクト開始年であったが、デザイン等を検討する時間が必要であったため、計画よりも遅れた投入となった。基本仕様の合意と建設許可手続き等には時間が必要であった。 試験圃場が開設され、運用されている。 他国の都市農業の実施例を参考にするため、2006年にアルゼンチン、2007年にペルー、2008年にキューバで研修を実施した。 コロンビア国内では、2008年5月に栽培技術研修、2008年9月に垂直栽培技術の研修、08年10月に栄養及びポストハーベストに関する研修を実施した。 開発及び標準化された技術を利用して、2009年3月3日に栽培マニュアルが発行された。 マニュアルは主にカウンタートパーパートが草稿を作成し、普及員が現場で使用することで検証を行い、検証結果を反映して完成させた。 | |
| | 1.1.1. 適正技術開発 | | 都市農業技術の標準化、インフラ整備に対する支援 |
| | 1.1.2. 都市農業に関わる職員の研修実施 (国内・海外) | | ラ米各国における研修実施(3年間で3件)、コロンビア国内研修 (国内及び国外からの講師による、3年間で3件) |
| | 1.1.3. 都市農業開発に関わるマニュアルの作成 | 都市農業に関わる農業技術マニュアルの草稿作成・草稿の検証・検証結果の反映・マニュアルの完成 | |

| | | | |
|--|---|---|--|
| | <p>1.2. コミュニティワークに関わる能力強化</p> <p>1.2.1. コミュニティワークに係る研修実施(国内・海外)</p> | <p>本邦研修への派遣(3年間で3名)、国内研修(3年間で3件)</p> | <ul style="list-style-type: none"> PLSDに関する本邦研修に2007年に2名、2009年1名を派遣した。 国内研修は、2006年に「都市農業活動に関わる複数のアクターを巻き込んだ政策・施策の計画と実践」研修、2007年に「地域社会開発に基づくサン・クリストバル地区都市農業活動計画」及び「普及員及びソーシヤルワーカー対象研修」、2008年に「普及技術講習会-住民の能力強化と試験研究の慶全に向けて-」及び「コミュニティ・エンバワーマーメント研修」が実施された。 これらの研修の一部はサン・クリストバル区の担当者だけではなく、植物園の普及員全体を対象に実施した。また、アキシヨ・ソシアル、サン・クリストバル区役所、ロサリオ大学等の都市農業関係者を招待して実施された。 2009年4月にマニユアル1種が完成した。 草稿は専門家によって作成され、草稿の内容を使って普及員や都市農業関係者に対する研修を実施し、参加者の反響などから適用可能性や有効性を検証し、完成させた。 |
| | <p>1.2.2. マニユアル、テキスト作成</p> | <p>テキスト類の編集・マニユアルの草稿・有効性の確認・完成</p> | <ul style="list-style-type: none"> 普及教材のデータベースが作成され、植物園の図書館に納入された。 |
| | <p>1.3. 都市農業に関わる広報及び普及戦略の策定と実施</p> <p>1.3.1. 都市農業プロジェクトによって作成された普及教材の整理・分析</p> | <p>普及教材のデータベース作成</p> | <ul style="list-style-type: none"> 普及教材のデータベースが作成され、植物園の図書館に納入された。 |
| | <p>1.3.2. 戦略プランの作成</p> <p>1.3.3. 広報用資材及び普及教材強化</p> | <p>都市農業普及広報戦略プラン作成 パンフレット1冊、区毎の成果を紹介した小冊子(19区)、ポスター3種、カレンダー2種</p> | <ul style="list-style-type: none"> 09年4月24日に国際都市農民交流会で発表される予定である。 パンフレット1種、区毎の成果を紹介した小冊子の草稿(19区)、ポスター3種、カレンダー2種を作成した。 |
| | <p>1.3.4. 都市農業に関わる双方向情報交換システムの設計、設置及び改良</p> | <p>植物園のHPに掲示またはリンクされた都市農業のホームページ1種</p> | <ul style="list-style-type: none"> 都市農業のホームページ (http://www.agroubano.unlugar.com/) が作成された。 |
| | <p>1.4. ベースラインの確定</p> <p>1.4.1. 食習慣に関わる現状分析</p> <p>1.4.2. 都市農業に関わる現状分析</p> | <p>2008年7月までに区の都市農業の状況及び食糧消費に関わるベースラインを確定する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 2008年5、6月にベースライン調査を実施。2008年12月に最終報告書が提出された。 当初、植物園には栄養に関する専門職はおらず、調査実施のための栄養改善に関する専門知識が不足しており、予定通りの調査実施に至らなかった。その後、INSから技術支援を受けることができ、INSが中心となってプロジェクトともに調査デザイン、ツールの作成、調査実施、分析が行われた。 |
| | <p>1.5. モニタリング評価</p> <p>1.5.1. 食習慣に関わるモニタリング</p> <p>1.5.2. 都市農業に関わるモニタリング</p> | <p>2009年3月までに評価に関わる調査報告書が作成される。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ベースライン調査同様INSの協力を得て、2009年2月に調査が実施された。2009年4月24日の国際都市農民交流会の中で調査結果が発表される予定である。 |
| | <p>2.1. 既存の都市農業の改善</p> | <p>受益者800人に対する研修及び普及活動を実施し、この経験を既存のモジュールの改善のためにフィードバックする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 研修及び普及活動対象者実績は2007年：927人、2008年：921人であった。 |

| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>プロジェクトの実施体制に問題はなかったか。</p> | <p>プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか。</p> | <p>研修モジュールを作成し、受益者 800 人に対する研修及び普及活動を実施し、この経験をモジュールの改善のためにフィードバックする。</p> | <p>当初、この分野の専門職員が植物園にはいなかったが、2008 年から雇用され、INS の協力を得てモジュールの作成を行った。そのため、研修モジュールが完成したのは 2008 年の 9 月であり、その後、237 人に対して研修が実施されたが、目標受益者の数には至らなかった。</p> |
| <p>3.1. 対象住民の事業形成能力の強化</p> | <p>3.1.1. 住民組織の強化</p> | <p>組織強化に関わる研修と能力強化を実施するために、植物園の都市農業プロジェクトの受益者の中から住民組織 25 個をアイデンティファイする。</p> | <p>サン・クリストバル区内で 25 組織がアイデンティファイされた。</p> |
| <p>3.1.2. 事業立案に関わる能力強化 (研修と実地指導)</p> | <p>能力強化の結果として、最低五つの事業が実施される。</p> | <p>上記の 25 組織に対し、2007 年に 10 組織、2008 年に 15 組織を対象に事業形成能力強化のための研修を実施した。研修の実施に際して、初年度は NGO の拜委託、2 年目は専門の職員を契約した。</p> | <p>研修の結果として、2009 年 1 月時点で 8 グループが事業 (主にグループでの共同生産・販売) を実施していることが確認されている。</p> |
| <p>3.2. 区内及び区の領域を超えた単位の組織の参加に基づき、住民組織と行政組織等が交流できる場の振興と強化</p> | <p>サン・クリストバル区都市農業田卓会議の強化 (年間計画の作成・実施) による三つの行事の企画・実施、同区内及び区外の都市農業組織の経験交換の促進 (年間 6 回)</p> | <p>サン・クリストバル区都市農業田卓会議はプロジェクトの介入以前にも開催されていたが、2007 年 8 月の会議では住民の参加者が 2 名になるなど、田卓会議としての機能不全に陥っていた。プロジェクトが同年 9 月にワークショップを実施し、田卓会議の基本コンセプト等の策定を行い、その後の会議では活動計画が策定され、計画に沿って活動が実施された。</p> | <p>田卓会議の活動として、行事の年間計画が立案され、菓草講習会、広報印刷物の発行及び都市農業祭が実施された。</p> |
| <p>3.3. 植物園が中心となつて食生活に関わる機関によって構成されるアドバイスターチームを設立する。</p> | <p>プロジェクトと栄養改善期間もしくは栄養改善に関わる会議との関係付け、食生活測定に関わる測定ツールの作成、都市農業で栽培される作物を使った 1 カ月分のメニュー例の作成、都市農業で栽培される作物の加工と保存に関わるパンフレット作成</p> | <p>食の安全保障と栄養改善、もしくは都市農業に関わる行政組織の会議が 2008 年の政権交代の影響で実施されなかった。そのため、都市農業政策ラインに関わる提案作成ワークショップを 6 回実施するとともに、2009 年 4 月に実施される国際都市農氏交流会において、政策提言が発表された。</p> | <p>区内及び区外の都市農民の交流行事が 6 回実施された。</p> |
| <p>プロジェクトの実施体制に問題はなかったか。</p> | <p>プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか。</p> | <p>プロジェクトと栄養改善期間もしくは栄養改善に関わる会議との関係付け、食生活測定に関わる測定ツールの作成、都市農業で栽培される作物を使った 1 カ月分のメニュー例の作成、都市農業で栽培される作物の加工と保存に関わるパンフレット作成</p> | <p>食生活測定に関わる測定ツールは 2008 年 5 月に INS によって作成され、ベースライン調査に活用された。</p> <p>普及対象作物母の特徴、栽培方法、料理方法を記入した 45 作物分のパンフレットが作成された。</p> <p>加工と保存に関わるパンフレットについては、昨年契約された植物園の加工・保存の担当の業務であったが、実施されないまま任期が終了した。</p> |
| <p>プロジェクトの実施体制に問題はなかったか。</p> | <p>プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか。</p> | <p>プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか。</p> | <p>プロジェクトの実施体制は適切に機能しているか。</p> |

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|---|
| | | | <p>(3) 「成果3. 区の都市農業活動の持続性を確保するために、コミュニティにおける組織枠組みが強化される」に関わる活動</p> <p>社会開発アドバイザー及びプロジェクト319のサン・クリストバル区普及チームをC/Pとして実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの通常業務実施に関わるマネージメントについては、2008年末まではプロジェクト・リーダーと専門家が共同で実施してきた。その後は人員交代があり、プロジェクトの体制が未だ十分に確立されていない。 2008年2月及び9月の園長の交代のたびにプロジェクト319の運営体制が変更され、このたびに活動が停滞するなどの影響を受けた。プロジェクトの通常業務実施に関わる意思決定は、その時々園長の園長によって異なった。また、各園長の運営方針の違いにプロジェクト運営が左右された（他機関との共同作業に関する方針の違いなど）。 その他の植物園の幹部（技術活動部長、プロジェクト・リーダーなど）の相次ぐ交代に伴う移行期間やC/Pの契約更新が行われる1～2か月の間は空白期間となり、プロジェクト活動が停止するなど、プロジェクトの運営にも影響があった。 専門家とC/Pのコミュニケーションは十分に保たれ、問題はなかった。 専門家と植物園の幹部とのコミュニケーションについては、多忙なため、なかなか時間が取れないことがあった。 市役所や区役所はプロジェクト319に資金を投じているが、JICAプロジェクトの実施には直接的な連携はあまりなかった。 既述のプロジェクトの空白期間は受益者への支援も停滞することから、継続的なコミュニケーションを保つことが困難であった。 JICAへの報告は専門家からの月ごとの報告や合同調整委員会での報告などで十分に行われた。 プロジェクトの監督機関であるアクション・ソシアルへの報告は合同調整委員会などの額に行われた。 会合の開催実績については、以下のとおり。 <p>①合同調整委員会： 2007年1月25日（植物園、アクション・ソシアル、JICA参加、INSオブザーバー出席） 主な議題：PDM V-1及びPOの承認</p> <p>2008年5月29日（植物園、アクション・ソシアル、JICA参加） 主な議題：中間評価結果及びPDM V-2の承認</p> <p>②運営委員会 2007年8月29日（植物園、アクション・ソシアル、JICAの実務者レベル参加） 主な議題：プロジェクト進捗報告、PDM V-1及びPOの改訂の必要性について</p> <p>2007年12月13日開催（植物園、JICAの実務者レベル参加） 主な議題：PDM V-1及びPOの改訂内容について</p> <p>③備考 2008年11月を目途に合同調整委員会もしくは運営委員会を開催予定であったところ、上でも報告した以下の理由により実施できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> C/Pが雇用（契約）されていない 園長及び技術活動部長及びプロジェクト・リーダーの交代 |
| | <p>関係者間のコミュニケーションは適切にとられているか。</p> | <p>JCC その他の会合開催実績、プロジェクトの内容について、関係者間で共通の認識があるか、共同作業の実施に問題がないか。</p> | |
| | | | |

| | | | |
|---|--|--|---|
| <p>技術移転の方法に問題はなかったか。</p> | <p>実施機関やC/Pのオーナーシップは十分か。</p> <p>モニタリングは適切に行われているか。</p> <p>技術移転の成果が確認できるか。</p> | <p>実施機関・C/Pの参加度、投入実績、プロジェクト終了後の実施計画の有無、関係者所感</p> <p>モニタリングの頻度、方法、結果が共有されているか。</p> <p>各成果の達成状況、モニタリングの結果、関係者の所感</p> | <ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトはボゴタ市の政策に基づき植物園が実施する「プロジェクト319」を技術的に支援するプロジェクトであることから、都市農業に係る普及活動においては、実施機関のオーナーシップは高いと言える。 普及員と地区アドミニストレーターとは週1回の会合、2008年12月まではプロジェクト・マネージャーと進捗管理を毎月、少ない時でも3カ月に1回実施していた。 植物園への報告は、植物園が実施するモニタリングプロセスに則ってその他の業務と同様に毎月の報告が行われていた。 普及員やその他の植物園関係者に対しては研修を実施し、課題を出して現場で実施してもらい、また、見直しをする方法で技術移転を行ってきた。しかし、プロジェクト当初から現在までC/Pであった人材は限られている。人員の交代が頻繁であることを受け、導入した技術を含めた普及員の活動のスタンダード化を図り新しい普及員に技術を伝える方法を検討していたが、その役割を担う人材も2008年11月に退職してしまっただけで、停滞している。 作成されたマニュアルは今後の技術移転に活用できるが、植物園内でマニュアルがどのように活用されていくかは未だ具体的に検討されていない。 C/Pはプロジェクトが導入した技術を積極的に取り入れて活動を行い、サンクリストバル区における成果を上げている。 既に退職したC/Pにおいても、都市農業を推進する他のNGO等でプロジェクト在籍時に得た知識を活用している。 成果3の活動を通して、関係者間の連携の場として円卓会議を支援してきた結果、そこに参加している各アクターの連携が強化され、合同でイベントや研修も実施された。 C/Pからは、プロジェクトを通して普及員の受益者やコミュニティとの接し方が改善され、それによって住民側の積極性が向上したとの意見が多く聞かれた。 |
| <p>適切なC/Pが配置されたか。</p> <p>ターゲットや関係組織の参加度や認識は高いか。</p> <p>その也実施過程で生じている問題や、効果発現に影響を与えた要因</p> | <p>プロジェクトの実施において適切な人材が配置されたか。</p> <p>各関連組織や対象住民がプロジェクトの活動に十分に参加しているか。</p> <p>必要に応じたPDMやPOの改訂が適切に行われたか。</p> | <p>活動への参加度、貢献度、積極性、その他の関係者の所感</p> <p>各活動への参加実績、関係者の所感</p> <p>改訂の有無、時期、理由、プロセス</p> | <ul style="list-style-type: none"> ① V-0からV-1への改訂 <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト開始当初より改正作業を開始し、2006年9月までにプロジェクトとしての案を完成した。この案を基にしてJICA事務所等と調整を行い、この結果、2007年1月25日の合同調整委員会でPDM及びPOのV-1の承認を受けた。 ② PDM V-1からV-2への改訂 <ul style="list-style-type: none"> 2007年8月の運営委員会でPDM及びPO改訂の必要性が指摘された。改訂が必要とされた理由は、「①プロジェクト実施機関（ボゴタ市植物園）が独自プロジェクトとして実施している活動に関しては、JICAプロジェクトとして取り組む必要性が少ない」、「②区役所との活動上の役割分担の明確化が必要とされた」、「③成果2の活動の一部（住民組織強化関連）がPO-V1では未確定であった」及び「④成果3の活動方針変更が必要とされた」。 なお、「④成果3の活動方針変更が必要とされる」に関しては、サンクリストバル病院が2006年末をもって都市農業関連活動から撤退したことなど、区役所と植物園以外の関連機関を巻き込んだ組織的活動をもって、都市農業関連活動及び農業改善活動の持続性を担保するという、当初計画の実現が難しい事が明らかになったことをさす。このため、区の都市農業円卓会議の強化と、この会議と公的機関の連携の強化を強化することをもって、都市農業活動及び農業改善活動の持続性の担保を目指すこととした。 V-2の案に関しては2007年10月時点でほぼ出来上がっていたものの、園長との調整に手間取り、12月に開催した運営委員会の場でようやくプロジェクトとしての最終案が作成された。その後、2008年2月の園長の交替等があったため、 |

| | | | |
|--|---|--|---|
| | | | <p>JICA 事務所との調整作業が終了し、合同調整委員会の承認を受けたのは、2008 年 5 月になった。その後 PO の改訂作業を行い、7 月にプロジェクトとしての最終版を決定し JICA 事務所との調整を行った。9 月に最終版が完成したものの、C/P の契約問題、園長の交代等により、合同調整委員会を開催できず、承認を受けるには至らなかった。</p> <p>以降変更なし。</p> |
| 中間評価の提言について適切なフォローアップを行ったか。 | | | |
| ①ターゲットグループの整理 | 本プロジェクトの対象となる「国内避難民」は定住生活を営み始めたグループと認識されているか。 | | <ul style="list-style-type: none"> 提言どおり実施された。 |
| ②「栄養改善」の定義 | 「栄養改善」は総合的な都市農業戦略を実施することにより、対象住民の消費する野菜の量と種類が増加することと定義されているか。 | | <ul style="list-style-type: none"> 提言どおり実施された。 |
| ③人員の確保 | リーダー的な人材が継続雇用されたか。 | | <ul style="list-style-type: none"> 既述のとおり、植物園の幹部及び C/P の人員交代は相次いで起こり、実現に至っていない。 |
| ④住民参加型都市農業モデルの普及 | プロジェクトのパイロット的な適用について検討されたか。 | | <ul style="list-style-type: none"> サン・クリストバル区の例をモデルとして①植物園のプロジェクト 319 内、②その他のプロジェクトやボゴタ市以外の地域での活用について、具体的に検討されていない。 理由については、C/P、プロジェクト・リーダーの交代があったこと、政権交代により植物園の園長や幹部の交代に加え、2008 年中は C/P 継続雇用のための予算問題に忙殺されたことなどが挙げられた。 提言を受けて活動中である。 |
| ⑤部分的な栄養改善から本格的な栄養改善へ | 多少規模の大きな農業への移行が検討されたか。 | | <ul style="list-style-type: none"> ベースライン調査最終報告書の提出が 2008 年 12 月であったため、結果の利用まで実施できなかった。 |
| ⑥野菜消費に関する現在の栄養状態診断としてベースライン調査を活用 | 調査の結果により栄養改善の目標が打ち出され、具体的な活動が実施されたか。 | | |
| ⑦植物園による栄養改善に関する情報整理 | 植物園が所有する有益な情報が文書化され、整理されたか。 | | <ul style="list-style-type: none"> 都市農業に関する書類の整理は完了した。 栄養に関わる情報整理には至らなかった。 |
| ⑧プロジェクト目標達成に貢献する栄養関連機関や組織の明確化 | 栄養関連に経験のある機関や組織と協力関係を結んだか。 | | <ul style="list-style-type: none"> 提案中。特に市役所関連機関に関しては、2008 年の政権交代以降業務体制が確立されていないため、実際の協力体制確立には至らなかった。 INS との協定については、各種支援を受けているにも拘わらず、事務手続き上の問題で、現在も正式な協力関係を結ぶための協定 (Convenio) が結ばれないまま、今日に至っている。 植物園の園長や幹部の交代があり、実施に至らなかった。 |
| ⑨植物園内の決定採択の流れを確立 | 植物園内の決定採択の流れが整理され、確立したか。 | | |
| ⑩プロジェクトを通じて実施された研修コースや活動の結果を文書化し共有化する。 | 研修で得られた知識・経験がコロンビアの公的機関が導入し得る品質改善基準に則り文書化され共有されたか。また、実際に活用されるように規則や法的制限が設けられたか。 | | <ul style="list-style-type: none"> 実際に研修に参加した人材の退職や植物園内の人員交代により、実施に至らなかった。 |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | ①インパクト調査の際に、支出の使途を考慮する。 | 都市農業を実施することにより被益世帯の支出の使途が変わる（間接的な収入増）ことを考慮した社会的インパクトが分析されたか。 | この点を考慮してインパクト評価が分析されている。 |
| | ②総合的アプローチとインパクト強化のため、食料栄養教育に関わるコンポーネントを確立する。 | 食料栄養教育に関わるコンポーネントが確立され、普及員や技術者が栄養関係の活動を実施できるようになったか。 | 住民に対する栄養/食生活改善にかかわる教育モジュールを確立され、普及員が住民に対して研修を実施している。 |
| | ③PDMの改訂 | 成果 2、3 及び指標について、変更に基づいて、活動が行われたか。 | 提言どおり実施された。 |

3. 評価 5 項目

| 評価項目 | 評価設問 | | 判断基準・方法（指標） | 調査結果 |
|------|------|--|----------------|---|
| | 大項目 | 小項目 | | |
| 妥当性 | 必要性 | プロジェクトは、コロンビア国の社会やターゲットグループのニーズに合致していたか。 | 関連文書・資料、関係者所感 | <ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトのターゲットグループである国内避難民の栄養状況は一般的に悪い。プロジェクトの対象地域であるサン・クリストベル地区はボゴタ市にある 20 の居住地区の中でも避難民の数が 5 番目に多い地区であるが、プロジェクト形成時（2005 年）のデータでは子供は 24% が慢性的栄養失調であり、ボゴタ市平均の 13.41% と比べて極めて高い状況であった。これに対し、ボゴタ市がコミュニティ・キッズなどを通じて食料の安全保障及び栄養改善に取り組んでいる。よって、栄養改善を目指すプロジェクトの実施はターゲットグループと社会のニーズに合致していると言える。 一方、近年の栄養問題はカロリーやタンパク質の不足といった従来の問題から、「隠れた飢餓」が代表するようになっている。栄養状態による肥満や栄養失調の問題への移行期にある。不足している栄養素を補う手段として野菜の摂取は、炭水化物やタンパク質を中心とした従来の食生活の改善には重要となっている。このような傾向は対象グループに関しても言えることであり、都市農業により野菜の家庭消費の増加を促進することは、対象グループのニーズに合致していると言える。 |
| | 優先度 | コロンビア国の開発政策との整合性はあるか。 | 国内避難民支援対策との整合性 | <ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトのプロジェクト目標及び上位目標は、コロンビア政府の国内避難民支援対策と合致している。また、食糧安全保障の政策において、アクシオン・ソシアルの RESA においても、都市農業の支援が行われていることから、本プロジェクトの国家政策との整合性は高いと言える。 本プロジェクトに対応するボゴタ市の政策は「食糧安全保障及び栄養改善」政策である。この中で「都市農業」は「食料へのアクセスの改善」の政策ラインに位置づけられている。2008 年のボゴタ市の政権交代後も、これらの政策を実行する策として「プロジェクト 319」の実施を継続しており、それを技術的に支援する本プロジェクトは、ボゴタ市の政策に沿った支援であると言える。 2008 年 6 月に発行された 2008-2012 年のボゴタ市開発計画「Bogotá Activa」の中の「Bogotá bien alimentada」プログラムにおいて、都市農業の促進プロジェクトが含まれているため、ボゴタ市の政策に整合している。 JICA の 2007 年国別事業実施計画では、援助重点分野の一つである「平和の構築」に対するアプローチの一つとして「国内避難民等社会的弱者支援プログラム」を形成しており、「国内避難民や投降兵士を経済的に支えている家族を含む社会的弱者に対する協力を目指し、主に都市農業技術普及を通じて都市貧困層の栄養改善支援、地雷被災者等の身体障害 |

| | | | |
|------------------|--|----------------------------|---|
| | | | <p>者に対するリハビリサービス向上支援、職業訓練を通じての経済的自立支援等を中心テーマとして、協力の展開を検討していく」と述べている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトはPLSDの分析概念の一部を都市農業の普及活動に取り入れているが、2008年国別事業展開の方向性において、「紛争の被害者である国内避難民、地雷被災者などの経済的・社会的再統合を支援すると同時に、被害者と加害者、受入れコミュニティの共生・和解を促進することを「平和の構築」における事業展開の方針としており、社会統合を促進する本プロジェクトのアプローチは整合性があると言える。 中間評価時に、本プロジェクトの対象となる「国内避難民」は都市農業に従事することが可能な「定住生活を営み始めたグループ」と定義し、また、「栄養改善」は総合的な都市農業戦略を実施することにより、対象住民の消費する野菜の量と種類が増加することと定義された。この定義に則ると、本プロジェクトのアプローチは適切な手段であると言える。 国内避難民を含む社会的弱者に対して都市農業を通して介入することは、食糧の安全保障、栄養改善のみならず、社会統合やコミュニティの形成・能力強化、環境教育、栄養教育、生計向上など、複数の観点から受益者の生活改善に取り組むことが可能となる。実際、対象グループはこのような複合的な生活改善を必要としているグループであることから、適切なアプローチであると言える。 プロジェクト形成時に設定された活動対象地区はサン・クリストバル区の中の三つの地域計画ユニット(UPZ)とされていたが、国内避難民及び投資兵士の集団居住区がこれらのUPZの外にあり、さらに、サン・クリストバル区の中で、これら3ヶ所のUPZを特別に取り上げて活動対象地とする理由が見当たらないこと、しかも、植物園及び区役所の活動はサン・クリストバル区全体を単位として展開されていることから、活動対象地区がサン・クリストバル区全体に変更された。 本プロジェクトは3年間という短時間で都市農業の栽培技術、コミュニティに対する普及技術、参加コミュニティの社会統合の促進といった複数の成果を求めたプロジェクトであり、限られた投入を活用し、既往のような一定の成果を上げてきている。これらを考慮すると、サン・クリストバル区ターゲット地域を限定し、この成果を活用して、今後ボゴタ市の他地域に普及させるアプローチは適切であると言える。 |
| <p>手段としての適切性</p> | <p>プロジェクトは開発課題に効果を生む手段として適切だったか。</p> | <p>実績の検証結果、関係者所感</p> | <p>本プロジェクトは以下の機関と関連している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コロンビア国政府機関等 <ol style="list-style-type: none"> 1) アクシオン・ソシアルの RESA Urbana 2) サン・クリストバル区 <p>植物園では、サン・クリストバル区役所と協定を結んで、区内における都市農業普及活動(組織強化を含む)を実施してきた。具体的には、植物園と区役所が年間計画(目標、受益者数、活動内容等)を共同で作成し、実施予算を区役所が植物園に対して支出する。植物園がこの予算を用いて活動を実施し(主に普及員の人員費)、区役所は植物園から提出される報告書に基づき、活動の監督を行ってきた。2008年9月以降、区はこの協定を他のNGOや大学と結んでおり、植物園とは結んでいない。</p> |
| <p>その他</p> | <p>他ドナーや他のJICA事業との連携・デマケは明確に示されているか。</p> | <p>他ドナー関連事業の関連文書、関係者所感</p> | <p>本プロジェクトは以下の機関と関連している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コロンビア国政府機関等 <ol style="list-style-type: none"> 1) アクシオン・ソシアルの RESA Urbana 2) サン・クリストバル区 <p>植物園では、サン・クリストバル区役所と協定を結んで、区内における都市農業普及活動(組織強化を含む)を実施してきた。具体的には、植物園と区役所が年間計画(目標、受益者数、活動内容等)を共同で作成し、実施予算を区役所が植物園に対して支出する。植物園がこの予算を用いて活動を実施し(主に普及員の人員費)、区役所は植物園から提出される報告書に基づき、活動の監督を行ってきた。2008年9月以降、区はこの協定を他のNGOや大学と結んでおり、植物園とは結んでいない。</p> |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | <p>3) 国家保健機関 (INS) 本プロジェクトが栄養改善機関との連携を模索していたところ、2007年5月頃より協力関係が成立し、この年の9月頃から以下の点において継続的な支援を得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「地域社会開発に基づくサン・クリストバル区都市農業活動計画研修」(5月29日～6月1日実施) における「開発に関わる栄養の指標について」に係る講義実施 ▶ 住民に対する栄養改善指導を行うためのツールの開発への助言 ▶ 都市農民 vs 一般住民の食生活及び植物生産に関わる状況の比較調査に係るツール開発 ▶ ベースライン調査の実施 ▶ 食生活及び野菜栽培へのプロジェクトのインパクトを測定するための調査の実施 |
| | | | <p>(2) NGO</p> <p>1) IPES 本部をベルー、リマ市におくNGOで、オランダのNGO (RUAF) からの資金を利用して、ラマ全域で都市農業普及を行っている。2008年よりコロロンビアに事務所が開設された(担当者は本プロジェクト開始時に植物園長だった人物)。ボゴタ市内では、植物園及びロサリオ大学との共同プロジェクト (Ciudades Cultivando para el Futuro: CCF) を実施した。CCF プロジェクトの実施地はボゴタ市 BOSA 区であった。2008年にプロジェクトは終了し、第2フェーズ (SFTT) を計画中である。本プロジェクトとは、具体的な連携は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 都市農業普及に関わる情報交換及び参加型開発の技法に関する相互研修を実施した。具体的にはプロジェクト人材育成に、ボゴタで2006年11月に実施された CCF の「セミナー+ワークショップ及び社会調査」を利用した。また、2007年の近隣諸国における研修の際に受入機関とした。この二つの機会ともに JICA プロジェクトからも技術提供(地域社会開発)を行っている。 ▶ 2009年4月に実施の「都市農民国際交流会」を共同開催している。具体的には海外からの招待客の空港及び航空券はこのNGOが担当している。 ▶ 現在ボゴタ市に対する都市農業政策提案を共同作成中。 ▶ IPES は政策への働きかけ、法改正への働きかけなど、JICA プロジェクトが実施していない社会制度への働きかけを行っている。 <p>一方 JICA プロジェクトの強みはボゴタ市における都市農業の中心的普及機関(植物園)の能力強化を行うとともに、住民に対する能力強化の経験を蓄積した所にある。この点でも IPES と JICA プロジェクトは補充関係にある。</p> |
| | | | <p>2) Manos Amigas (マノス・アミーガス) ボゴタ市に本部がある女性支援専門のNGOで、支援内容に都市農業が含まれている。特に、ボゴタ市近郊の自治体と共同で、女性の共同生産園場を開設中である。スペイン国政府やEUの支援を受けている。本プロジェクトで社会開発技術の研修を受けた C/P が2008年末にこのNGOに転職し、それ以降情報交換などを行っている。</p> |

| | | | | | |
|-------------|---|---------------------------------|---|--|--|
| 有効性 | 成果とプロジェクト目標の因果関係 | アウトプットはプロジェクト目標を達成するために十分であったか。 | 実績の検証結果 | | <p>(3) 国際機関 FAO がコロンビア国内で水耕栽培（化学肥料使用）による都市農業普及を実施している。プロジェクト 319（及び JICA プロジェクト）は有機栽培を原則としており、方針が違ふことから協力関係は結んでいない。但し、栄養改善に関わる分野に限り、FAO が 2007 年に開発したツールの使用の許可を担当者から口頭で得て活用を検討したが、都市農業技術研修の一環として、栄養知識を教授する目的には適さないため、現在はプロジェクトでは使用していない。</p> <p>(4) ロサリオ大学 大学の社会的責任における事業として、EU の資金による「ふるさと喪失者のための総合活動 Acci3n Integral de Atenci3n a Poblaci3n Desarraigadas」を実施している。これは国内避難民支援を目的とした地域総合開発プロジェクトであり、活動地区はクスメス区である。都市農業活動に関しては、現金収入を目的として実施している。本プロジェクトとは、コミュニティ・エンパワーメントに関わる情報交換を行っており、専門家が実施した研修に大学から参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発された適正技術は、ボゴタ市の地理的条件（海拔 2,550 メートルから 3,100 メートルに及ぶ標高など）や、社会条件、都市としての条件に合わせて開発されており、普及すべき技術として妥当であるという。 都市の小さいスペースに適した栽培方法は、地方での農業経験があり、ある程度の農業知識を持っている住民からも、新しい方法として好評を得ている。 サン・クリストバル区担当の C/P の間では研修で習得した技術を活用して、普及活動を実施している。 C/P からは、自分たちのコミュニティワークに係る態度を変えようとして住民との関係が良好になったこと、住民の積極性が向上したこと、個人ではなくコミュニティとしての協力の意識が生じたこと、結果として住民間の関係が改善し、住民組織が強化されたことなどが報告されている。 普及員への研修には C/P 以外の植樹園関係者も参加したが、人員の入れ替わりも多く、サン・クリストバル区の担当以外の普及員の間ではこの技術の活用が、どの程度であるかは確認されていない。 2008 年頭の区長交代に伴い、サン・クリストバル区では植樹園との契約が更新されないことが決定され、2009 年からは区からの資金投入はない。 <ul style="list-style-type: none"> 都市農業を行っている住民とそうでない住民との間には、消費する野菜の種類、栽培面積に差が出ていることが報告されている。 中間評価で定義されたように、本プロジェクトの栄養改善を「対象住民の消費する野菜の量と種類が増加すること」とすれば、目標は達成されると言える。一方、ボゴタ市の現状の都市農業の規模は非常に小さく、家庭菜園のレベルであり、短期間の実験に一般的に意味合いでの栄養改善にどの程度貢献したかについては、確認手段がない。 中間評価で定義された栄養改善を達成するために、本プロジェクトの三つの成果は普及員の能力面、住民自身の実施能力面、住民の活動を支える組織間の連携面から支援しており、プロジェクト目標を達成するためには、これらのアウトプットは十分であったと言える。 栄養教育や野菜の加工・調理方法などは、栄養改善を達成するための重要なコンポーネントであるが、成果 1 の普及員の能力強化のコンポーネントには加えられていない。実際は成果 2 の活動の一環として、これに関するモジュールが作成され、普及員に対する研修も行われてきたが、今後は栽培技術、普及技術に並ぶ重要な技術の一環として、栄養教育の技術が認識される必要がある。 |
| プロジェクト目標の達成 | 中間評価以降、プロジェクトを取り巻く環境（政策、経済、社会等）の変化はないか。 | プロジェクト目標は達成されるか。 | 実施機関の組織変革、プロジェクトの位置付けの変化、他ドナーによる新規類似プロジェクトの有無、経済状況の変化等 実績の検証結果 | | |
| プロジェクト目標の達成 | プロジェクト目標は達成されるか。 | プロジェクト目標は達成されるか。 | | | |

| | | | | |
|-------|---|---|---|--|
| | | | <p>プロジェクト運営の及び実施に関わる人員が変更されていないか。</p> <p>都市農業が2008年の政権交代以降もポゴタ市の政策の一環としての位置を失っていないか。</p> <p>新たな外部条件の有無</p> <p>実績の検証結果、関係者所感</p> | <ul style="list-style-type: none"> 既述のとおり、人員の交代は頻繁に発生しており、プロジェクトが導入した技術の新しい人材への移転が課題である。 ポゴタ市の都市農業に対する取り組みは変わっていない。 特になし。 栄養改善関連の関係機関との調整が進捗しなかったこと。 CPが全て契約社員であり、年末の契約更新の遅延が起こる。この為、年末から3月までCPが不在になる等の問題が発生した。 |
| | アウトプットからプロジェクト目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか、外部条件の影響があったか。 | プロジェクト目標達成の障害・貢献要因は何か。 | <p>実績の検証結果</p> | <ul style="list-style-type: none"> 各成果の指標は達成されており、また、活動の成果が発現していることが確認されている。しかし、それぞれの成果はまだ発現し出したばかりであり、今後さらに安定的に成果を維持していくために必要な活動を具体化していく必要がある。 |
| 効率性 | アウトプットの産出 | アウトプットの産出状況は適切か。 | <p>実績の検証及び実施プロセスの分析結果</p> | <ul style="list-style-type: none"> それぞれのアウトプットに対する活動は、アウトプットを産出するために十分な活動であった。 |
| | 活動とアウトプットの因果関係 | 活動からアウトプットに至るまでの外部条件は現時点においても正しいか、外部条件の影響はあったか。 | <p>食と栄養の安全保障委員会が制度上の地位を確立しているか。</p> <p>市の土地利用計画が都市農業に関する土地利用の障害となっていないか。</p> <p>新たな外部条件の有無</p> | <ul style="list-style-type: none"> 食と栄養の安全保障委員会については、制度上の変更はなく、特に影響はない。 今のところ、都市農業の推進がポゴタ市の開発計画の中に含まれていること、現在までの都市農業は家庭菜園レベルであることにより、障害になっていない。しかし、今後生産の拡大を視野に入れた活動を行う場合には障害となる可能性があることから、土地利用計画に対する提言の作成が進められている。 特になし。 |
| | 投入のタイミン量 | 活動を行うために過不足ない量・質の投入が、タイミン量よく実施されたか。 | <p>投入の実績及び実施プロセスの分析結果、関係者所感</p> | <ul style="list-style-type: none"> CPの人材交代や再契約の遅延などにより、必要なCPを適切なタイミングで活用することが困難であった。 「栄養改善」に関わる投入はプロジェクト前半では行われなかった。INSとの連携を得て、また、植物園でこの分野の専門職員を雇うまでに時間がかかり、成果2の活動の実施に影響を及ぼした。 その他の投入については、プロジェクト活動の実施に適切に活用された。 |
| | 上位目標達成の見込み | プロジェクトの効果として上位目標の発現が見込まれるか。 | <p>実績の検証結果</p> <p>上位目標の達成を阻害する要因の有無</p> | <ul style="list-style-type: none"> 植物園のプロジェクト319や他の機関によってポゴタ市のサン・クリストバル区以外の地域でも都市農業が普及されている。しかし、その結果今までに栄養がどの程度改善されたかについては、データが存在していない。 上位目標の入手可能な指標が特定されていない。 今後、プロジェクトがサン・クリストバル区を対象として普及してきた適正技術や普及技術、栄養教育並びに関連組織の連携の支援がプロジェクト319を通して他地域でも活用されることで、より効果的に上位目標の達成に貢献することが期待できる。 プロジェクト319はポゴタ市の政策と運動していることから、現政権下においては継続が約束されており、ポゴタ市内における都市農業の普及は継続される。しかし、新たなプロジェクト・リーダーが3月に就任したばかりであり、本プロジェクトの成果がどのように活用されていくかについては、具体的にない。 |
| インパクト | 上位目標とプロジェクト目標 | 上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。 | <p>実績の検証結果</p> | <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト319が確実に実施される計画であることから、上位目標とプロジェクト目標に乖離はないと言える。 |

| | | | |
|--------|---|---|---|
| 因果関係 | プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件は現時点でも正しいか、外部条件が満たされる可能性は高いか。 | 植物園の都市農業プロジェクト運営及び実施に関わる人員が変更されないか。 | <ul style="list-style-type: none"> 今まで、以下のように多くの人員交代が行われてきたことから、今後もある程度の人員交代は避けられないものと考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ①植物園長 (RD 上は Project Director) の交代 (06 年 11 月、08 年 2 月、及び 08 年 9 月に交代) ②技術活動部長 (RD 上は Project Manager) の交代 (06 年 11 月、及び 08 年 9 月に交代) ③都市農業プロジェクト (プロジェクト 319) リーダー (CP) の交代 (08 年 5 月、09 年 1 月、及び 09 年 3 月に交代) ④プロジェクト 319 技術係長 (CP) の交代 (06 年 12 月に交代) ⑤プロジェクト 319 社会教育係長 (CP) の交代 (07 年 3 月、08 年 9 月に交代) ⑥サンクトリスバル区担当アドミニストレーター及び現職普及員等との交代 (07 年 年頭に普及員 2 名の契約が結ばれなかった (1 名は事実上の解雇)。08 年 12 月にチーム全体の契約が終了。現在後継チームの契約更新中である。) ⑦クリンテックノロジー係長 (08 年 2 月にこの役職が廃止された。該当係長は退職。) ボゴタ市の都市農業に対する取り組みは変わっていない。 |
| 波及効果 | 上位目標以外の正負のインパクトは生じたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 都市農業がボゴタ市の政策の一環としての位置を失わないか。 新たな外部条件の有無 政策の策定と法律・制度・基準等の整備への影響の有無 ジェンダー、人権、貧富等、社会・文化的側面への影響の有無 ターゲットグループへのその他の影響の有無 | <ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの特筆すべきインパクトとして社会統合が挙げられる。家庭内のつながりの回復、社会とのつながりの強化、ばらばらに活動してきた関連組織の連携体制の構築等、社会面のインパクトが様々な関係者から聞かれる。 その他、都市農業の各関係者からは、次のような事例が報告されている。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 都市農業に従事する女性の中には家庭内での地位が向上しつつあるケースがある。 ◇ 有機栽培の実施により、環境や食の安全に関する意識が高まった。 ◇ 都市農業が普及してきたことで、今度はこれが公共政策として行われるような体制を整えるための提言が準備されている。 ◇ 収穫されたものを自家消費することが目的であったが、余剰分をフェアやイベントで販売・提供するケースがある。 ◇ 植物園でプロジェクトから技術移転を受けた後に退職した人材が、都市農業を推進する他機関 (NGO や大学) で活躍しており、そのような人材を通して各機関の連携も促進されている。 ◇ 植物園外部において、関連本邦研修の帰国研修員と元プロジェクト CP の協力関係が育っており、都市農業関連 NGO にプロジェクトが導入した社会開発技術を導入する動きがある。 プロジェクトは有機農業を推進していることから、環境への悪影響もなく、負のインパクトは確認されなかった。 |
| 政策・制度面 | プロジェクト終了後も政策支援が継続するか。 | 国及びボゴタ市の政策、動向 | <ul style="list-style-type: none"> 次のような点から、プロジェクト終了後も少なくともボゴタ市の現政権内 (2012 年まで) においては、政策支援は継続的に行われると言える。 (1) 市レベル <ul style="list-style-type: none"> ボゴタ市、メデジン市、マニサレス市、その他国内都市で都市農業が推進されている。ボゴタ市における都市農業プロジェクトは、前政権下では食の安全保障と栄養改善活動の中に位置付けられていた。 開発計画: Bogotá Siniferencia (無関心のないボゴタ) プログラム: Bogotá Sin Hambre (ボゴタからの飢餓の追放) 2008 年の政権交代以降、開発計画の中の基本的な位置付けに変更はなく、名称は以下のように変更されて同様の計画が始動している。 |
| 自立発展性 | | | |

| | | | | |
|--------|---|--|---|--|
| | | <p>都市農業の普及のための関連規制、法制度は整備されているか。</p> <p>協力終了後も活動を継続するための組織能力はあるか。</p> | <p>必要な法制度の整備状況</p> <p>サン・クリストバル区での取り組みをボゴタ市の他地域に普及させるための取り組みが担保されているか。</p> <p>人材配置、意思決定プロセス、実施体制などの整備状況</p> | <p>開発計画：Bogotá Positiva (前向きなボゴタ) プログラム：Bogotá Bien Alimentada (食の行き届いたボゴタ) (2) 国レベル</p> <p>国レベルでは、ポリシーとしての都市農業政策はないが、大統領府アクション・プランの RESA URBANA が都市農業プロジェクトへの支援を引き続き支援していることから、今後も協力関係を強化していくことが期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市農業の拡大において、ボゴタ市の土地利用計画が拡大を制限する可能性があることから、問題の解決に向けて、IPES、植物園、JICA 共同で、制度改革に向けた提案を作成中である。 2008 年後半以降は植物園の幹部の交代やその他の人員交代が相次いだことから、サン・クリストバル区での取り組みをボゴタ市の他地域に普及させるための具体的な取り組み方法を、活動の中心となる人物たちと議論するに至らなかった。 今後、サン・クリストバルで活動していた普及員が他の地域の担当となる計画があるが、その場合もどのようなようにサン・クリストバルの経験を活用するのか、今のところ具体化されていない。 ボゴタ市の規則では、市の機関が実施する「プロジェクト」に関しては、その職員は全員契約職員とすると規定されており、本プロジェクト C/P に関しても全員が契約職員である。よって、プロジェクトから技術移転を受けた職員の雇用状況も不安定である。この点は、プロジェクト運営上からも、また、プロジェクト成果の持続性という観点からもマイナス要因である。 本プロジェクトの技術関連活動である、① 植物園 (プロジェクト 319) が行っている栽培技術開発への支援及び② 社会開発技術の移転について、① に関してはプロジェクト実施期間中、担当者の交代が一度もなかった為、この担当者の継続雇用を確保することにより、プロジェクト成果の持続性が担保される可能性が高い。 この一方で、② に関しては中間評価時に本プロジェクトの有効な成果として指摘された活動であるにも拘わらず、関連本邦研修参加者で植物園に定着しているものが現時点では一人もおらず、現場で専門家から技術移転を直接受けた職員も 2008 年末に退職している。従って、社会開発技術に関する本プロジェクトの成果を植物園に定着させるための方法を検討する必要がある。 他方、ネットワークの確立を間接的に支援することにより、多様な組織をまたいだ職能ネットワークが形成される可能性があり、ボゴタ市の都市農業を幅広く支える人材インフラとして機能することが期待できる。 植物園では、食の安全保障と栄養改善活動に限定されない都市農業活動の利点を、上位政策に対してアピールし、都市農業プロジェクト (事業) の「プログラム化」を目指しており、都市農業に今後も積極的に取り組んでいく方針である。 2009 年以降もプロジェクト 319 はボゴタ市のプロジェクトとして市から予算配置がある予定である。 |
| 組織・財政面 | | | | |
| 技術面 | <p>実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分か。</p> <p>プロジェクト終了後の活動継続のための予算がどの程度確保されているか。</p> <p>プロジェクトが取り入れた技術は関係者から受け入れられているか。</p> | <p>ボゴタ市及びボゴタ植物園のプロジェクトを活用した都市農業普及に対する方針</p> <p>対象地域の今後の予算計画、他地域への普及のための予算計画</p> <p>都市農業に係る適正技術、普及・コミュニティネットワークに係る技術 (PLSD を含む) は実施者及び受益者や関連組織などに受け入れられているか。技術レベル、社会的・慣習的要因などの問題がないか。</p> | | <p>(1) 栽培技術</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトはプロジェクト 319 が行っている容器栽培技術の開発及び普及を支援した。この技術は住民に普及されている。 <p>(2) 社会開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物園の内部においては、本プロジェクトが導入した参加型地域社会開発 (PLSD) が高い評価を受け、都市農業プロジェクトだけでなく他の事業でも活用される見込みとなっていた。しかし、植物園運営陣の交代及び技術移転を受けた C/P 全員が退職 (あるいは契約の打ち切り) したため、その成果の継続性を確保するための具体策が必要になっている。 |

| | | | |
|-----------|---|-----------------------------------|---|
| | 普及のメカニズムはプロジェクトに取り込まれているか。 | 広報活動状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本プロジェクトでは都市農業に関するウェブページが作成された。 ・ 植物園は独自に広報活動をしており、サン・クリストバル区については JICA のプロジェクトとしてメディアでの紹介も行われた。 ・ 国際都市農民交流会が開催された。 ・ 既述のとおり、人員の交代によって、制度化に向けた取り組みは具体化されていない。 ・ プロジェクト対象地域では住民組織が強化され、育ちつつあることから、都市農業活動の持続性が期待できる。 ・ 元々遊離民は地方出身で農業経験者が多く、野菜の栽培に慣れ親しんでいることから、小さなスペースやプラスチックの容器でも栽培できることが分かっており、住民が少なからず存在し、活動が継続されることが期待できる。 |
| 社会・文化・環境面 | 女性、貧困層、社会的弱者、環境への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性はないか。 | 制度化に向けた取り組み 持続的効果の発現の促進要因と阻害要因 | |

投入実績

<日本国側投入実績>

(1) 専門家派遣実績

| 専門家氏名 | 指導科目 | 派遣期間 | 派遣前の所属 |
|-------|---------------------------|---------------------------|-------------------|
| 間瀬 朝夫 | コミュニティ・エンパワメント／業務調整 | 2006年5月31日～ 2008年5月30日 | 日本福祉大学大学院 (学生) |
| 間瀬 朝夫 | プロジェクト運営管理／コミュニティ・エンパワメント | 2008年5月31日～ 2009年5月30日 | 同上(但し、休学中) |

(2) カウンターパートの本邦研修受入実績

| 研修員氏名 | 受入期間 | 協力分野名 | 研修内容及び受入機関 | 当時の役職 | 現在の役職及び離職年月、離職先 |
|-------------------------|------------------------|---------------|---------------------------------|-----------------------|---|
| Claudia Marcela Sanchez | 07年 1月27日 ～3月17日 | 参加型 地域社会開発 | 集団研修「参加型 地域社会開発の理論と実践」 | 都市農業プロジェクト・リーダー | 現在フリーの コンサルタント 08年2月離職 |
| Paula Martínez | 同上 | 同上 | 同上 | 都市農業プロジェクト、社会教育係長 | 現在ボゴタ市環境局アドバイザー、 07年3月離職 |
| Jairo Silva | 09年 1月26日 ～3月20日 | 同上 | 同上 | 都市農業プロジェクト、政策提言担当 | 帰国後契約が結ばれていない(解雇の可能性あり) |
| Luis Bernaldo Cañon | 07年 6月18日 ～10月5日 | 地域別 ・国別 | 地域別研修「小規模農民支援有機農業普及手法(中米カリブ地域)」 | サン・クリストバル地区アドミニストレーター | 地区アドミニストレーター但し、 現在は契約が結ばれていない。契約手続き中 |
| Sandra Rodriguez Urrea | 08年 6月18日 ～10月5日 | 地域別 ・国別 | 同上 | ウスメ地区他アドミニストレーター | 08年12月離職、 現在本プロジェクトの行事企画員 |
| Karen Benitez Cocunubo | 08年 8月6日 ～23日 | 農業農村 | 青年研修/中南米混成(西語) | サン・クリストバル区普及員 | 地区普及員但し、 現在契約が結ばれていない。契約手続き中 |

(3) 機材供与実績及び利用状況

供与機材

| | 設置時期 | 機材名 | 型式 | メーカー | 購入価格(COP) | 購入価格(円) | 使用セクション | 設置場所 | 稼働の有無 | 非稼働の場合 |
|---|-----------|-----------|---------------|--------|------------|-----------|----------------|------------|-------|--------|
| 1 | 06年 7月 | 四輪 駆動車 | Prado Sumo | Toyota | 58,092,428 | 2,614,159 | 都市農業 プロジェクト | 正門横 駐車場 | 有 | |
| 2 | 07年 3月 | スキャナ | DR-25 80C | Canon | 3,000,000 | 168,000 | 都市農業 プロジェクト | 専門家 執務室 | 有 | |

| | | | | | | | | | | |
|--------|-----------|---------------|----------------------------|--------------------|-------------|------------|------------------------------|------------|---|--|
| 3 | 07年 3月 | ハンディ GPS | Recon XC Editio n | Timble | 12,555,892 | 703,130 | 都市農業 プロジェ クト | 植樹課 | 有 | |
| 4 | 07年 3月 | コピー機 | BIZ HUP 250 | Konica Minolta | 17,399,998 | 974,400 | 都市農業 プロジェ クト | 専門家 執務室 | 有 | |
| 5 | 07年 3月 | デスクト ップ PC | RQ90 8LA# ABM | Hewlett Packard | 3,120,000 | 174,720 | 都市農業 プロジェ クト | 普及員 室 | 有 | |
| 6 | 07年 3月 | デスクト ップ PC | RQ90 8LA# ABM | Hewlett Packard | 3,120,000 | 174,720 | 都市農業 プロジェ クト | 普及員 室 | 有 | |
| 7 | 07年 3月 | ノートブ ック PC | RN82 5LAA BM | Hewlett Packard | 5,050,000 | 282,800 | 都市農業 プロジェ クト | 専門家 執務室 | 有 | |
| 8 | 07年 3月 | ノートブ ック PC | RN82 5LAA BM | Hewlett Packard | 5,050,000 | 282,800 | 都市農業 プロジェ クト | 部長室 | 有 | |
| 9 | 07年 3月 | レーザー プリンタ | Q6455 A | Hewlett Packard | 810,000 | 45,360 | 都市農業 プロジェ クト | 専門家 執務室 | 有 | |
| 1 0 | 07年 3月 | レーザー プリンタ | Q6455 A | Hewlett Packard | 810,000 | 45,360 | 都市農業 プロジェ クト | 普及員 室 | 有 | |
| 11 | 08年 3月 | 研修セン ター | | | 177,137,733 | 9,919,713 | 植物園・持続可能 な成長に関わる展 示エリア | | 有 | |
| 合計 | | | | | 286,146,051 | 15,385,162 | | | | |

在外事業強化費分

| | 設置 時期 | 機材名 | 型式 | メーカー | 購入価 格 (COP) | 購入価格 (円) | 使 用 セクション | 設置 場所 | 稼動 の有無 | 非稼 動の 場合 |
|----|-----------|--------------------|----------------|-------|-------------------|-------------|------------------------|------------|-----------|----------------|
| p1 | 07年 1月 | 液晶プ ロジェ クター | EMP-S4 | EPSON | 2,449,000 | 139,593 | 都市農 業プロ ジェク ト | 専門家 執務室 | 有 | |
| p2 | 07年 1月 | デジタル DVD カメラ | DCR-DVD 205 | SONY | 1,570,000 | 89,490 | 都市農 業プロ ジェク ト | 専門家 執務室 | 有 | |
| p3 | 07年 1月 | デジタル カメラ | DSC-W50 | SONY | 777,000 | 44,289 | 都市農 業プロ ジェク ト | 専門家 執務室 | 有 | |
| p4 | 07年 1月 | デジタル カメラ | DSC-W50 | SONY | 777,000 | 44,289 | 都市農 業プロ ジェク ト | 専門家 執務室 | 有 | |
| p5 | 07年 1月 | デジタル カメラ | DSC-W50 | SONY | 777,000 | 44,289 | 都市農 業プロ ジェク ト | 専門家 執務室 | 有 | |

| | | | | | | | | | | |
|----|------------|-------------|---------|--------------|-----------|---------|------------------------------|------------|---|--|
| p6 | 07年 1月 | デジタル カメラ | DSC-W50 | SONY | 777,000 | 44,289 | 都市農 業プロ ジェク ト | 専門家 執務室 | 有 | |
| p7 | 08年 12月 | 揚水ポ ンプ | WG-110 | Wolf gang | 121,200 | 6,908 | 植物園・持続可 能な成長に関わ る展示エリア | | 有 | |
| 合計 | | | | | 7,428,200 | 413,147 | | | | |

(4) 現地で開催したセミナーの実績

1) コロンビア国内におけるセミナー等

| 年度 | コース名 (研修内容) | 開催日 | 期間 | 参加人数 | 対象者 | 備考等 |
|-------------------------|--|---------------------------------|-----------|----------|--|--|
| 2006 | 都市農業活動に関わる複数のアクターを巻き込んだ政策・施策の計画と実践 | 11/27 ～12/4 | 6日間 | 36 | 植物園・ロサリオ大学の都市農業関係者 ボサ区の住民 | IPES ¹ 、ロサリオ大学との共同ワークショップ |
| 2007 | 地域社会開発に基づくサン・クリストバル地区都市農業活動計画研修 | 5/29 ～6/1 | 4日間 | 43 | 大統領府アクション ソシアル、サン・クリ ストバル区役所。ロ サリオ大学等の都市 農業関係者及び植物 園のサン・クリスト バル普及担当者 | グアテマラ PROETTAPA プロジェクト 関係者（専門家 1名、C/P4名） 参加 |
| 2007 | 普及員及びソーシャルワーカーを対象とした研修 | 6/4,6/25, 7/9,7/30, 9/10. | 半年間 | 49～35 | 植物園都市農業プロ ジェクト関係者 | |
| 07年 9月～ 09年 5月 | SC区都市農業円卓 会議強化ワークショ ップ | 毎月第 一木曜 | 1年 9カ月 | 42～25 | 都市農業円卓会議出 席者（都市農民、区 役所等） | |
| 2007 | 社会分析に関わる 研修 | 10/9 ～10/10 | 2日間 | 19 | IPES ² の都市農業関 係者及び植物園の SC区普及関係者 | 近隣国における研 修の一環としてリ マ市で実施 |
| 2008 | 普及技術講習会 ー住民の能力強化と 試験研究の改善に向 けてー | 4/21 4/28 | 2日間 | 33 27 | 植物園都市農業プロ ジェクト関係者 | 同じ内容の講習会 を2度実施した |
| 2008 | 栽培技術研修 | 4/12 | 1日 | | 植物園都市農業プロ ジェクト関係者 | 上の普及技術講習 会で形成した提案 に則って実施した |
| 2008 | 垂直栽培研修 | 9/8 | 1日 | 12 | 植物園都市農業プロ ジェクト関係者 | |
| 2008 | コミュニティ・エン パワーメント研修 | 9/22,23, 25,26 | 4日間 | 35 | 植物園都市農業プロ ジェクト関係者 | |
| 2008 | 栄養及びポストハー ベスト | 10/27 | 1日 | 17 | 植物園都市農業プロ ジェクト関係者 | |

¹ Promocion del Desarrollo Sostenible,Peru ラ米全体に都市農業を普及している NGO。

² 脚注1参照

プロジェクト専門家及び C/P が企画運営に参加し、プロジェクト C/P が参加した研修

| 年度 | コース名 (研修内容) | 開催日 | 期間 | 参加人数 | 対象者 | 備考等 |
|------|---|-----------------|-----|------|--|---------------------------------------|
| 2007 | 集団研修「参加型地域社会開発の理論と実践」及び「参加型地域社会開発のプロジェクト計画管理」のフォローアップ | 1/21 ～23 | 4日間 | 21 | ラ米全体の該当研修の元研修員、コロンビアからの参加予定者及びプロジェクト C/P | 専門員 1 名、グアテマラ個別専門家 1 名参加、C/P オブザーバー参加 |
| 2008 | 個人・組織・社会のエンパワーメント | 10/21、 23、28 | 3日間 | 10 | 帰国研修員及び JICA 職員有志 | 帰国研修員を対象に実施した研修 |

2) 近隣諸国における研修

| 年度 | コース名 (研修内容) | 開催日 | 期間 | 参加人数 | 対象者 | 備考等 |
|------|----------------|--------------|-----|------|------------------------|------------|
| 2006 | 都市農業研修 | 8/6～13 | 8日間 | 16 | 園長、部長、植物園都市農業プロジェクト関係者 | アルゼンチンにて実施 |
| 2007 | 都市農業研修 | 10/8～13 | 6日間 | 6 | 植物園のサン・クリストバル区普及担当者 | ペルーにて実施 |
| 2008 | 都市農業研修 | 11/11 ～14 | 4日間 | 7 | 園長、部長、都市農業プロジェクト・リーダー | キューバにて実施 |

(5) 日本国側ローカルコスト負担実績

| 年度 | 項目 | 金額(COP) | 金額(円) | 備考 |
|------|----------|-------------|------------|----|
| 2006 | 在外事業強化費 | 67,761,110 | 3,198,000 | |
| 2007 | 在外事業強化費 | 63,278,190 | 3,894,000 | |
| 2008 | 在外事業強化費 | 137,587,344 | 6,654,000 | |
| 2009 | 在外事業強化費 | 117,000,000 | 4,797,000 | |
| | 在外事業強化合計 | 385,626,644 | 18,543,000 | |

| | | | | |
|------|--------|-------------|------------|------------|
| 2006 | 供与機材 | 109,008,318 | 15,385,162 | コンピュータ等 |
| 2007 | 供与機材 | 177,137,733 | 413,147 | 研修センター建築経費 |
| | 供与機材合計 | 286,146,051 | 15,798,309 | |

在外事業強化費及び供与機材の合計 671,772,695 (コロンビア・ペソ)
34,341,309 (円)

<コロンビア国側投入実績>

(6) C/P 配置実績一覧

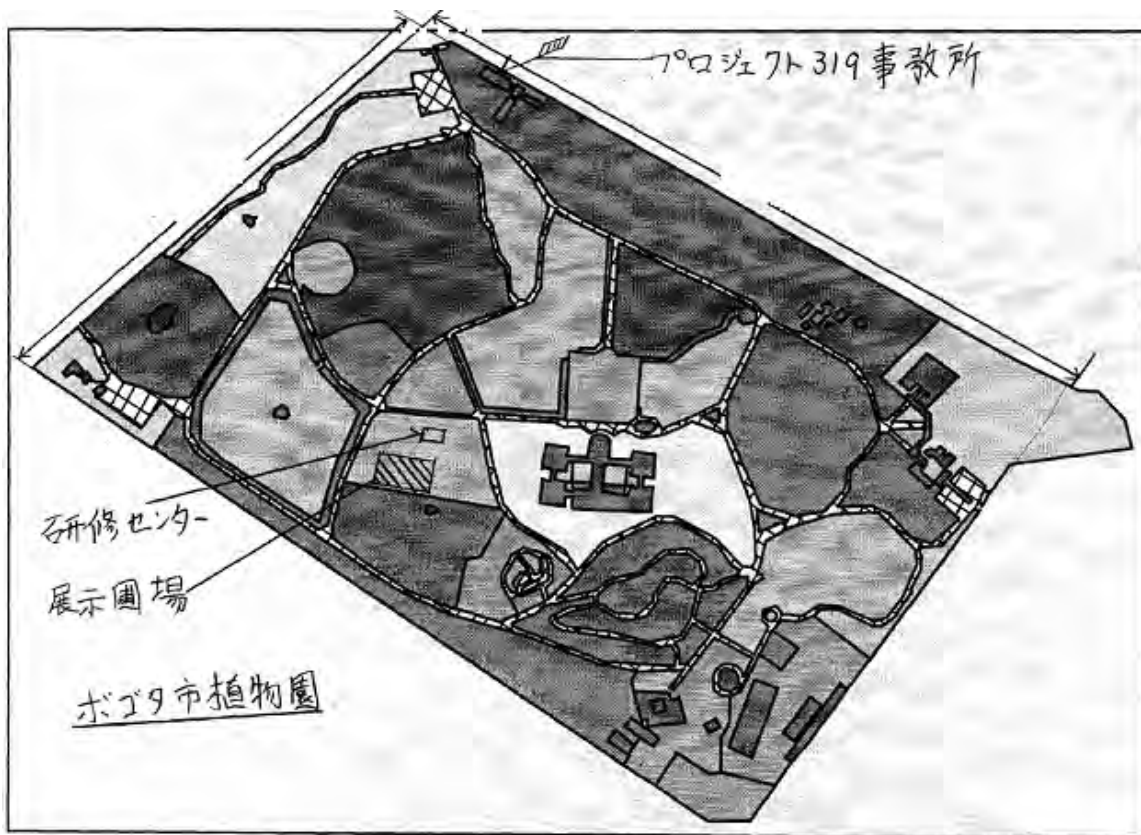
| C/P の氏名 | C/P の役職 及び専門分野 | 研修（配 置）期間 | 実施機関 での 勤務期間 | 備考等 |
|-----------------------------|---|------------------|-----------------------|----------------------------------|
| Claudia Marcela Sanchez | プロジェクト・リーダー （海洋生物） | 06年6月～ 08年1月 | 05年8月～ 08年1月 | 退職 |
| Rafael Amaya Citiva | プロジェクト・リーダー （海洋生物） | 08年5月～ 08年12月 | 08年5月～ 現在 | 現在はイベント企 画調整 |
| Dora Peña Cano | プロジェクト・リーダー （森林学） | 09年1月～ 09年3月 | 08年9月～ 09年3月 | 09年2月よりリー ダ候補として勤 務、正式就任なし |
| Jaime Guillermo Mora Florez | プロジェクト・リーダー （建築、都市計画、社会環 境経営学 etc.） | 08年3月～ 現在 | 08年3月～ 現在 | |
| Antonio Jose Velez Garcia | 普及係長（農学） | 06年6月～ 06年12月 | 04年8月～ 06年12月 | 現在は村落開発 NGOに勤務 |
| Luis Bernaldo Cañon | 地区アドミニストレータ （農学） | 06年6月～ 08年12月 | 03年1月～ 現在 | 現在契約なし 契約手続き中 |
| Paula Martínez | 社会教育係長 （人類学） | 06年6月～ 07年3月 | 05年1月～ 07年3月 | 現在はボゴタ市環 境局長アドバイザー |
| Angélica Peñuera | クリーンテクノロジー係長 （生物学） | 06年6月～ 07年11月 | 06年3月～ 07年11月 | 現在国家環境局勤 務 |
| Claudia Gonzalez Rojas | 試験研究係長 | 06年6月～ 現在 | 01年10月 ～現在 | 現在契約なし 契約手続き中 |
| Gloria Bustamante | 教育専門職（コミュニテイ 開発／心理学） | 06年6月～ 08年11月 | 04年10月 ～08年11 月 | 現在開発 NGOに勤 務。都市農業関連 活動実施 |
| Karen Benitez | 普及員（農学） | 06年6月～ 08年12月 | 05年5月～ 現在 | 現在契約なし 契約手続き中 |
| Lara Jazmin Yarai | 普及員（農学） | 07年3月～ 08年12月 | 05年4月～ 現在 | 同上 |
| Augusto Méndez | 普及員（農学） | 06年6月～ 07年12月 | 06年1月～ 07年12月 | 同上 |
| Alejandro Ardila | 普及員（農学） | 07年6月～ 08年12月 | 07年5月～ 現在 | 同上 |
| Oriana Sepulveda | ソーシャルワーカー | 07年6月～ 08年6月 | 07年5月～ 08年6月 | 退職 |
| Patricia Torres | 教育専門職（文学） | 06年6月～ 08年12月 | 06年9月～ 08年12月 | |

(7) コロンビア国側投入予算実績

| | 2006年 | | 2007年 | | 2008年 | |
|-----|-------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|
| | COP | 円 | COP | 円 | COP | 円 |
| 人件費 | 87,450,000 | 4,365,504 | 118,851,000 | 6,813,728 | 118,851,000 | 6,031,688 |
| 消耗品 | 42,802,127 | 2,136,682 | 173,349,000 | 9,938,098 | 173,349,000 | 8,797,462 |
| 資機材 | 84,939,834 | 4,240,197 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 34,197,435 | 1,707,136 | 29,220,000 | 1,675,183 | 29,220,000 | 1,482,915 |
| 計 | 249,389,396 | 12,449,519 | 321,420,000 | 18,427,009 | 321,420,000 | 16,312,065 |

※日本円の換算は各年度の JICA 予算統制レート 12 カ月分の平均値を用いて計算した。
2006年度 COP1=0.04992¥、2007年度 COP1=0.05733¥、2008年度 COP1=0.05075¥

- (8) コロンビア国側提供の土地、建物、事務所、施設及び施設図
 都市農業プロジェクト（プロジェクト 319）専用の建物の中に、JICA プロジェクト事務所として1室を提供。

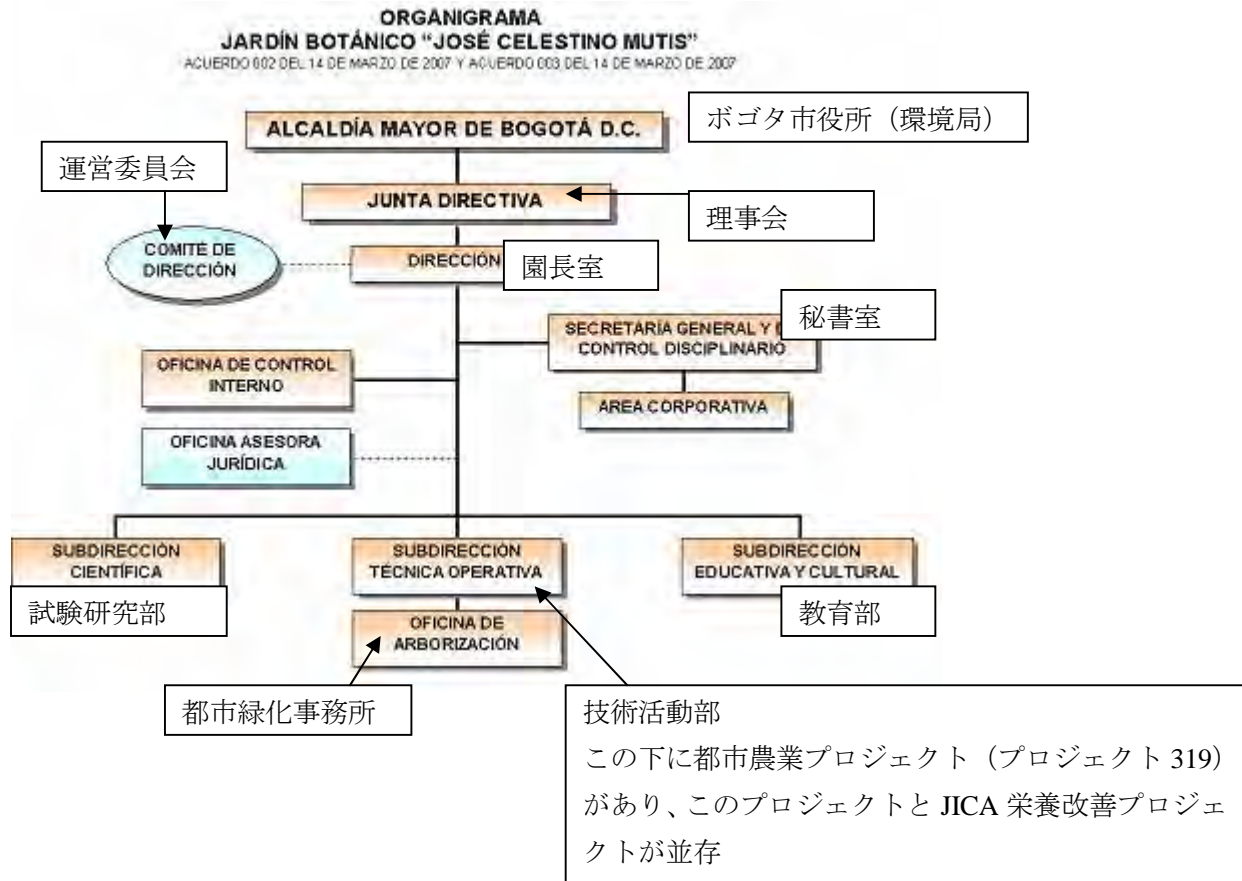


プロジェクト 319 事務所見取り図

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|---------------------|-----|-----------------|----|--------------------|-----------------------------------|-------|-------|------|
| 普及員・アド ミニストレ ーター室 | トイレ (倉庫) | トイレ | 秘書／受付 玄関 | 台所 | 倉庫 | 会議室 ／作業場 技術活動部 ／植物収集 | 普及員室・ | 2m | |
| | | | | | | | | アドミニス | 1.3m |
| | JICA 栄養改善 プロジェクト | | | | プロジェクト 319 リーダ室 | | | トレーター | 3.4m |
| 3.8m | 3.5m | | 3.8m | 4m | 4.0m | 4m | | | |

実施機関組織図

植物園組織図（開始時と現在で変更なし）



面会者リスト

Anexo 6: Lista de Entrevistados

- 14 de Abril **Ana Yibby Forero Torres**, Subdirectora de Investigación, Instituto Nacional de Salud (INS)
Liliana Ramirez, Coordinadora de Acción Integral de Atención a Población Desarraigadas, Universidad Rosario
- 15 de Abril **Rosa Elva Duras**, Beneficiario de Barrio Santa Rosa
Claudia L. Menza, Beneficiario de Barrio Santa Rosa
Martha Cecilia Campos, Beneficiario de Barrio Santa Rosa
William Roberto Herrera Hernández, Alcalde de San Cristóbal
Luis Medina, Beneficiario de Parque Entrenueves,
- 16 de Abril **Herman Martínez Gómez**, Director, Jardín Botánico de Bogotá (JBB)
Julio Cesar Pulido, Asesor Científico y Encargado de Planificación, JBB
Edna Rángel, Secretaria General, JBB
Federico Hura, Director Técnico, JBB
Luis Bernardo Cañon, Coordinador Territorial, JBB
Claudia Marcela Sánchez, Coordinadora de Gestión Ambiental, IPES Colombia (Ex-líder del proyecto 319, JBB)
Catalina Quintero Ferrer, Profesional, JBB
Bibiana Alvarez, Profesional, JBB
Patricia Torres, Experto de educación, JBB (no tiene contrato vigente)
Jazmín Yara Serrano, Técnico, JBB (no tiene contrato vigente)
Karen Stephanie Benítez, Técnico, JBB (no tiene contrato vigente)
Gloria Bustamante, Coordinadora, Asociación Manos Amigas (Ex- experto de educación, JBB)
Alejandro Ardila, Técnico, JBB (no tiene contrato vigente)
Augusto Méndez, Técnico de Apoyo, Terra-Nova (Ex-técnico de JBB)
- 17 de Abril **Calorina Avellaneda**, Asesora, RESA, Acción Social
Jorge Ardila, Asesor, RESA, Acción Social
Edgar Alberto Rojas, Subdirector de Selvicultura Flora y Fauna Silvestre, Secretaria Distrital de Ambiente (SDA)
Juan Carlos Gutierre, Profesional especializado en Selvicultura Flora y Fauna Silvestre, Secretaria Distrital de Ambiente (SDA)
Alexandra Rivera, Encargada de Cooperación Internacional, Secretaria Distrital de Ambiente (SDA)
- 19 de Abril **Ricard Mero**, Subdirector, DCI, Acción Social
Rosángela Correa, Asesora, DCI, Acción Social
Jorge Ardila, Asesor, RESA, Acción Social
Juanita Henao, UNPFA
Herman Martínez Gómez, Director, Jardín Botánico de Bogotá (JBB)